

◎社会資本の戦略的な維持管理・更新、耐震化

「北海道インフラ長寿命化計画」に基づく長寿命化の取組など社会資本の老朽化対策や社会資本や建築物などの耐震化の推進

主な要望内容

●社会資本の老朽化対策、長寿命化の取組や既存ストックの有効活用

・公共施設の老朽化、長寿命化の取組や既存社会資本の有効活用

【白老橋（白老町）【直轄代行】、ときめき橋（登別市）、錦岡跨線橋（苫小牧市）、新川（札幌市）、余市川（余市町）、頓別川（浜頓別町、中頓別町）、有明ダム（初山別村）、野幌総合運動公園（江別市）、パンケヌシ川（日高町）石狩川流域下水道（滝川市ほか）、下水道施設（函館市、小樽市ほか）、日吉町A団地（函館市）、大麻宮町団地（江別市）北進団地（北見市）、標津海岸（標津町）、銭函海岸（小樽市）など】

●社会資本や建築物などの耐震化

・道路施設や建築物などの耐震化

【ニセコ大橋（ニセコ町）、ときわ橋（標茶町）、十勝川流域下水道（帯広市ほか）、下水道施設（苫小牧市）、ホテル旅館等大規模施設など】

●インフラ長寿命化に向けた連携体制の推進

・地方公共団体職員の技術力確保、国や市町村などとの連携強化

【道内全域】

【構造物の劣化状況】

▼道路（橋梁）

道道登別室蘭インター線
ときめき橋（登別市）



▼河川管理施設（樋門）



頓別川（中頓別町）

▼海岸保全施設



銭函海岸（小樽市）

▼公営住宅



道営住宅（滝川市）

▼下水道ポンプ施設



石狩川流域下水道
奈井江浄化センター（奈井江町）

▼観測施設（河川情報）



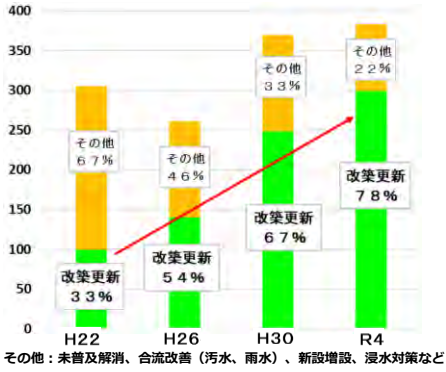
右：無線施設
下：危機管理型
水位計

中の川（小樽市）

【下水道施設の老朽化】

▼改築更新の予算推移

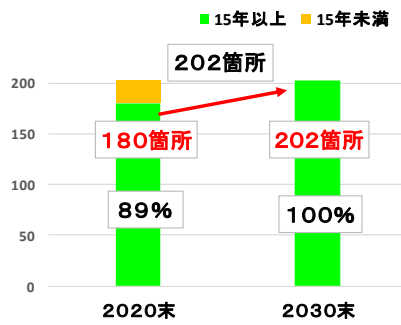
(単位：億円)
※札幌市除く



老朽化に伴う改築更新の必要額は下水道予算の約3割から約8割に上昇し、合流改善などの事業の予算を圧迫している。

▼処理場施設（機械設備等）

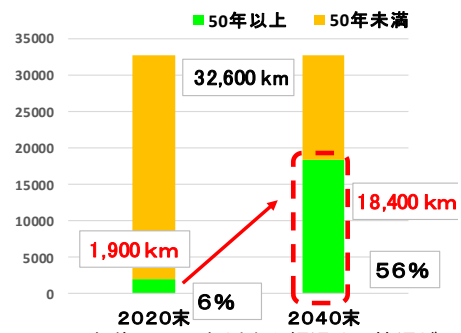
耐用年数15年以上経過施設数



既に15年以上が経過している処理場施設が約9割となっており、機械設備等の更新が急務。

▼管渠

耐用年数50年以上経過施設数



20年後には50年以上を経過する管渠が約5割となるため、長寿命化の確実な実施が必要。

【インフラ長寿命化に向けた連携体制の推進】

▼職員の技術力確保



▼地域の理解と協働の推進



▼市町村等への支援



▼担い手の育成・確保に向けた発注者としての取組



新型コロナウイルス感染症の拡大により、**物流機能を担う道路の重要性**を再確認。物流や観光等、地域経済を支えるインフラ強化はもとより、高度医療施設への救急搬送の支援など安全で安心な暮らしの確保に不可欠な**高規格道路をはじめとする道路の整備促進**が必要。

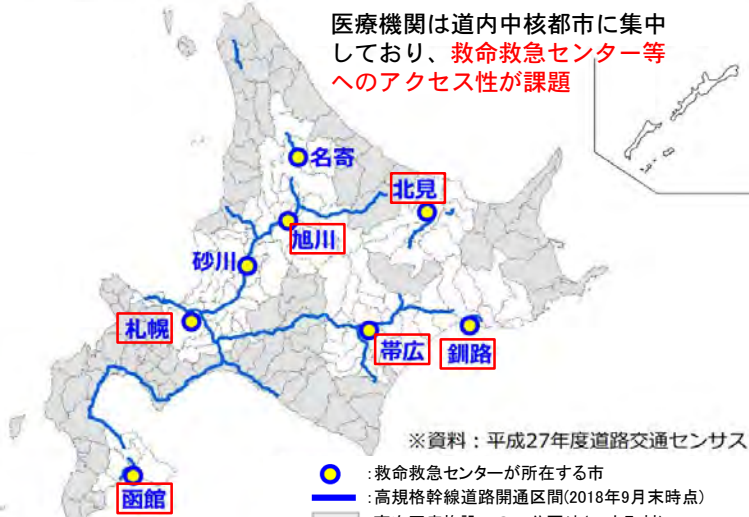
また、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に安心して暮らせる住環境への意識が高まってきており、引き続き、**多様化する生活様式等への対応**が必要。

■ 道民の生活や社会活動を支える道路網の早期形成

本道の高規格道路の整備は、全国に比べ大幅に後れており、いまだ未整備区間が多く残されている状況にあり、地域の中核をなす北見市、函館市などの人口10万人以上の都市が、未だにネットワークで結ばれていない。

▼ 高速道路の主な区間の交通量増減(R元年比)

▼ 救命救急センターが所在する都市

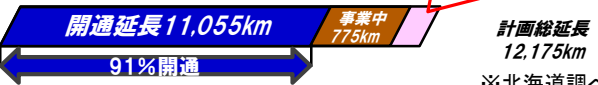


▼ (旧名称) 高規格幹線道路の延長 (R5.4.1時点)

【北海道】



【全国 (北海道を除く)】



※北海道調べ

■ 誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進

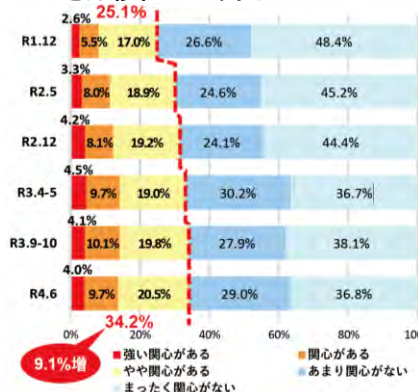
新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に地方移住への関心が高まっており、北海道への企業の移転等もみられるが、一方で地方での暮らしの課題に買物の利便性や医療・福祉等の生活環境を挙げる割合が多い。道内の定住・交流を促進するには、各種施設へのアクセス性を高めるため道内の交通ネットワーク強化が必要である。

▼ コロナ前と比べ首都圏からの本社の移転先で増加した都道府県

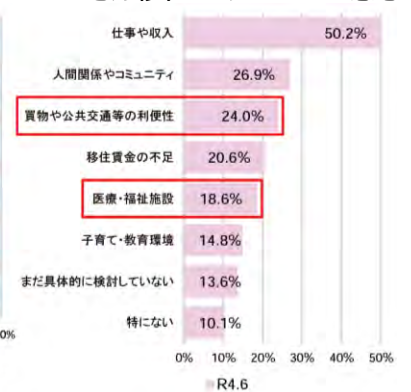


北海道に首都圏から移転した企業はコロナ前3年間累計(2017~19年)と比べて**2倍**に増加。

▼ 地方移住への関心



▼ 地方移住にあたっての懸念



(東京圏在住で地方移住に関心がある人を対象)

【出典：(株)帝国データバンク「特別企画：首都圏・本社機能移転動向調査(2022年)」】

【出典：第5回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査(内閣府)】

◎高規格道路等ネットワークの形成

高規格道路の整備促進や機能向上等による高規格道路等ネットワークの早期形成

主な要望内容

●高規格道路の整備促進

・着手している区間の早期開通

- 北海道縦貫自動車道：七飯^{ななえ}～大沼公園間、士別^{しべつ}剣淵^{けんぶち}～名寄間
 北海道横断自動車道：阿寒～釧路西間、足寄^{あしよ}～陸別^{りくべつ}小利別間
 帯広^{おびひろ}・広尾^{ひろお}自動車道（忠類^{ちゅうるい}大樹^{だいじゅ}～広尾間）、日高^{ひたか}自動車道（日高厚賀^{あつが}～東静内間）、
 旭川^{あさひがわ}・紋別^{もんべつ}自動車道（遠軽^{えんけい}～上湧別間）
 倶知安^{くちあ}余市^{あま}市道路（国道5号）（再掲）、端野^{はたの}高野^{たかの}道路（国道39号）（再掲）
 音威子府^{おとねつぼ}バイパス（国道40号）（再掲）、尾幌^{おぼろ}糸魚^{いとぎわ}沢^{さわ}道路（国道44号）（再掲）
 道央圏連絡道路：長沼^{ながぬま}南幌^{みなほろ}道路、中樹^{なかじゅりん}林^{りん}道路
 旭川十勝^{あさひがわ}道路：富良野^{ふらの}北海道道路
 遠軽^{えんけい}北見^{きたみ}道路：生田^{いくた}原^{はら}道路
 創成^{そうせい}川^{がわ}通（国道5号）

・未着手区間の早期着手

- 北海道縦貫自動車道：七飯^{ななえ}藤城^{ふじや}～七飯^{ななえ}間、美深^{みふか}北^{きた}～音威子府^{おとねつぼ}間（再掲）、中川^{なかつがわ}～幌延^{ほろのべ}間（再掲）、豊富^{とよむね}北^{きた}～稚内^{わかしほ}間
 北海道横断自動車道：黒松^{くろまつ}内^{うち}～倶知安^{くちあ}間（再掲）、釧路^{くしろ}別保^{べつぼ}～厚岸^{あつが}町^{まち}尾幌^{おぼろ}（再掲）、
 厚岸^{あつが}町^{まち}糸魚^{いとぎわ}沢^{さわ}～温根^{おんね}沼^{ぬま}間（再掲）、女満^{めづま}別^{べつ}空港^{くうこう}～網走^{あみぞ}間（再掲）
 旭川^{あさひがわ}・紋別^{もんべつ}自動車道（上湧^{かみわき}別^{べつ}～紋別^{もんべつ}間）、日高^{ひたか}自動車道（東静内^{あづませいち}～浦河^{うらがわ}間）
 函館^{はこだて}・江差^{えさし}自動車道（木古内^{きこうち}～江差^{えさし}間）
 遠軽^{えんけい}北見^{きたみ}道路、旭川^{あさひがわ}十勝^{しゅんけい}道路、釧路^{くしろ}中標津^{なかつまづ}道路、渡島^{わたしま}半島^{はんとう}横断^{おうたん}道路、根室^{ねむろ}中標津^{なかつまづ}道路、
 函館^{はこだて}新外環状^{しんがいわんじょう}道路、帯広^{おびひろ}空港^{くうこう}道路、松前^{まつまえ}半島^{はんとう}道路、帯広^{おびひろ}圏連絡^{けんれんらく}道路、道東^{だうとう}縦貫^{じゅうくわん}道路

●高規格道路の機能向上

・「高速道路における安全・安心基本計画」における4車線化優先整備区間の早期着手・完成

- 北海道横断自動車道：千歳^{ちんざい}恵庭^{えいぢょう}JCT～十勝^{しゅんけい}清水^{しみず}IC（再掲）
 北海道縦貫自動車道：登別^{とろひつ}室蘭^{むろらん}IC～伊達^{いだて}IC（再掲）、国縫^{くんにい}IC～八雲^{やち雲}IC（再掲）、和寒^{わさむ}IC～士別^{しべつ}剣淵^{けんぶち}IC（再掲）

・追加インターチェンジの整備やジャンクションの改良等

- 北海道横断自動車道：釧路^{くしろ}空港^{くうこう}IC（仮称）の早期完成
 長流^{おさるし}枝^{えだ}スマートIC（仮称）の早期完成
 新得^{あたら}スマートIC（仮称）、新得^{あたら}PA（仮称）の早期完成
 小樽^{おぞら}JCTの早期完成（小樽⇒余市^{あま}乗り入れの整備）
 本別^{ほんべつ}JCTの早期着手（本別⇒足寄^{あしよ}相互^{あま}乗り入れの整備）

・安全性と速達性、定時性の向上

- 追い越し車線の追加などの整備